

眞鍋協子 先生

出場者の皆様

今回の2日間のコンクールの演奏に、心を熱くしながら聴かせていただきました。

それぞれの講評用紙に書きましたが、全体に感じたことを書いてみます。

まず心がけていただきたいのは、①自分が演奏する作品の曲想をつかんで、それに合った音色とフレーズ運び(構成)を見つけること。次に②それによって、聴いている人に何かを必ず伝えるということ、です。

①には、作曲家や作品にどんなエピソードがあって、その作品がどんな造りになっているか、を知らなくてはなりません。②には客観的な耳が不可欠です。自分の耳でリアルに聴くのはもちろん、大きな会場で弾いたり録音や動画に撮って、第三者の耳で演奏を判断してみないと、自分の音楽がどう届いているかは、なかなか分かりません。

このような工程を経て、初めて音楽となり人の心に届くものだと私は思います。そうやって丁寧に作ったものに、存在感が出てくるのは当たり前ですよ。

若い皆さんは、教室の先生方とのレッスンの中で、また他の生徒さんの演奏を聴いて、毎週学ぶところがたくさんあるはず。その一つ一つが自分の財産になります。

チャンスを大切に、必ず自分のものにしましょう。

レッスン、そしてステージに向かって、今日の自分の音を磨いてください。

皆さんの一歩ずつの成長を、これからも楽しみにしています。

吉岡菜月 先生

コンクールに参加された皆様、2日間に渡り素敵な演奏をありがとうございました。

このコンクールでは毎回2曲を演奏するので、偏りが少なく、総合的に上達できる良いシステムだと感じます。

さて、今年のコンクール会場はいかがだったでしょうか。いつものホールではないせいか、多くの演奏がホールの響きに飲みこまれた、輪郭のハッキリしない音に聞こえました。普段のレッスン室や自宅での練習では、ホールで弾く事が前提である事を忘れがちです。

とはいえ、対策としては、タッチを常に意識して明確に、音のバランスを常に耳で聞く、という普段からの練習しかありません。それが出来ていた方が、残響音に飲まれず聞き手に届いた演奏だったと思います。

次に、表現についてです。

音楽なので、表現はあってしかるべきなのですが、一口に表現といっても、様々あります。最初にやってみる表現は、強弱だと思います。弾き手にも聞き手にも分かりやすいからです。今回のコンクールでは、ここまではみなさんしっかり出来ていましたが、その先まで進んだ方の数はグンと減っていました。表現方法の例えとして、

- 打鍵のスピードの変化
- フレーズの入りと出方
- crescendo/dim.の振幅
- 大事な音に対するタイミングの変化 etc.

ぱっと考えて、これくらいは出てきましたが、もっともっとあります。このように理屈からのアプローチもいいですし、物語を朗読するようにイメージを膨らましてなりきってみるのもいいです。要は、楽譜の音符以外に何が伝わるかが大事なのです。

最後になりますが、ご指導に当たられている先生方、サポートをされている保護者の方々のお力あつてのコンクールです。

これからもみなさんが、音楽を通して、向上心を刺激気合う良い機会として、この場を活用していただけたらと思います。

正源司有加 先生

2日間に渡り、参加者の方々の思いあふれる演奏を聴かせていただき、心温まる時間を過ごすことができました。

大人顔負けの豊かな表現力をお持ちの方もいらした幼児・小学生の部、本格的な曲に真摯に取り組まれていた中高生以上の方々、そして個性が光る名演揃いのデュオまで、沢山の方が参加して下さっていましたが、どの演奏からも、この日に向けて頑張ってきた練習の成果を精一杯発揮しようという意気込みが感じられ、皆さんが日々、先生方の丁寧で温かいご指導のもと楽しくピアノを学ばれているのがよく伝わってきました。

今後のステップアップために必要なこととして、しっかりとした拍子感を持つことと、長い音の響かせ方の工夫が挙げられると感じました。拍子を意識することで音楽の骨格が整ってきますし、長い音がホールでよく伸びるようになると立体感が増し、更に魅力的な演奏に仕上がるかと思えます。今後も色々な曲に挑戦しながら、益々表現の幅を広げていかれてください。

最後になりましたが、細やかなお心遣いでスムーズに運営して下さった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。